

商業・貿易・金融

卸売・小売業

平成19年6月1日現在（商業統計調査）の卸売業の事業所数は4,136事業所、従業者数は3万2,446人、年間商品販売額は2兆79億円となっています。前回調査の平成16年に比べ、事業所数は243事業所（5.5%）の減少、従業者数は1,233人（3.7%）の減少、年間商品販売額は49億円（0.2%）の増加となりました。

一方、小売業の事業所数は、1万7,466事業所、従業者数が11万2,723人、年間商品販売額は1兆9,325億円となっており、前回調査時と比べると事業所数は1,420事業所（7.5%）の減少、従業者数は326人（0.3%）の減少、年間商品販売額は917億円（5.0%）の増加となっています。

業種別年間商品販売額

年間商品販売額を業種別にみても、卸売業は建築材料、鉱物・金属材料等卸売業6,043億円で最も多く、卸売業年間商品販売額の30.1%を占めており、以下、飲食料品卸売業5,558億円（構成比27.7%）、機械器具卸売業5,022億円（同25.0%）と続いています。

小売業は、飲食料品小売業が5,371億円で小売業年間商品販売額の27.8%を占めており、次いで自動車・自転車小売業2,992億円（構成比15.5%）などとなっています。

図35 卸売業の推移

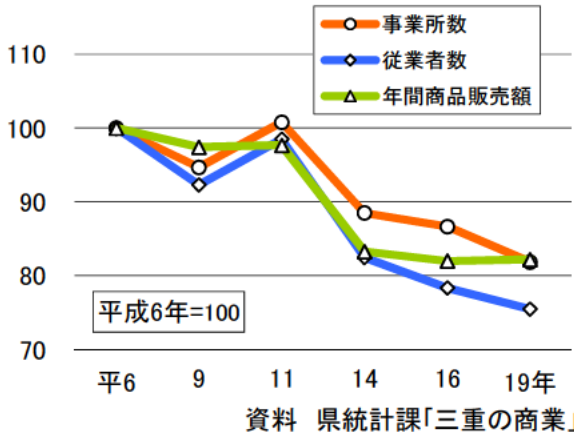


図37 卸売・小売業の年間販売額の産業分類別構成

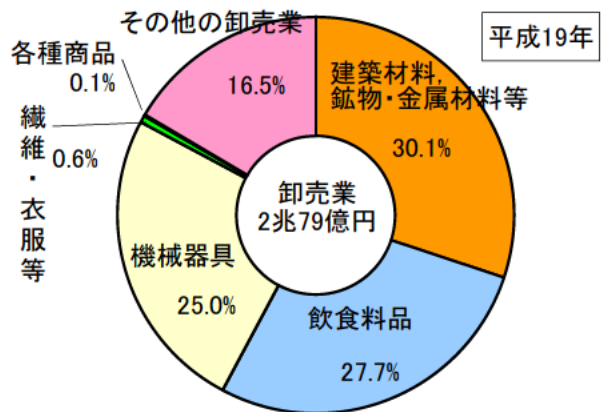
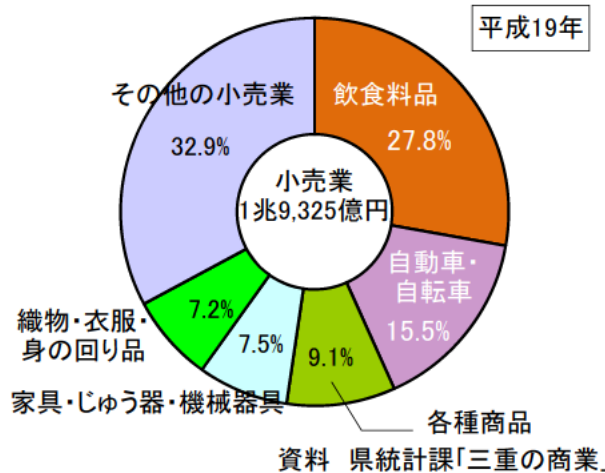
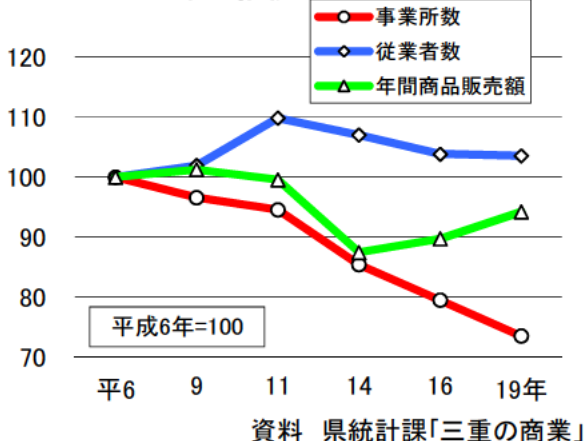


図36 小売業の推移



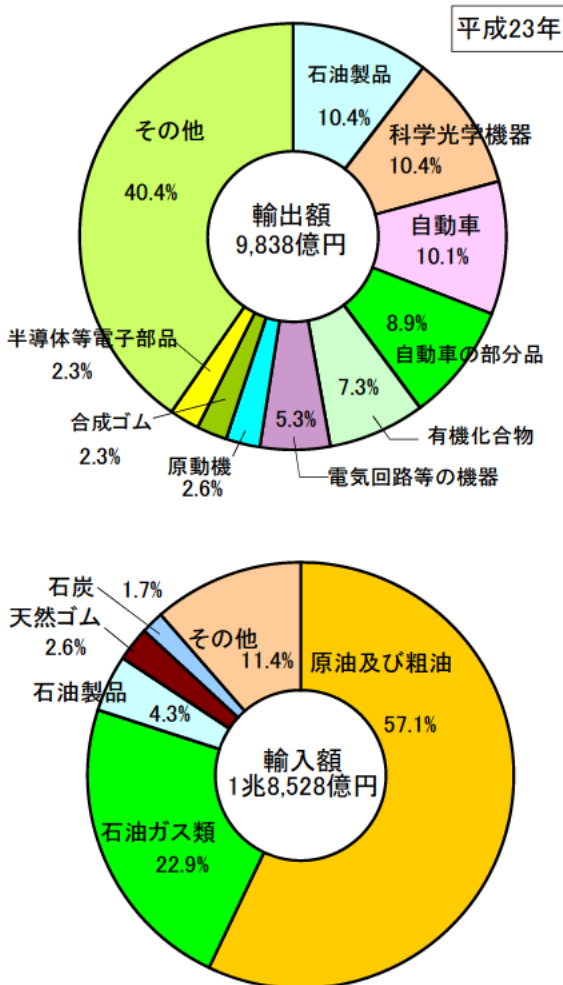
貿易

輸出・輸入ともに本県の大半を占める四日市港の平成23年の貿易状況をみると、輸出額は9,838億円で前年に比べ1,476億円（13.0%）減少、輸入額は1兆8,528億円で前年に比べ5,197億円（39.0%）増加しました。

品目別でみると、輸出は石油製品が1,028億円（構成比10.4%）で最も多く、科学光学機器が1,021億円（同10.4%）、次いで自動車993億円（同10.1%）の順となっています。

輸入は原油及び粗油が1兆575億円（構成比57.1%）で最も多く、次いで石油ガス類が4,244億円（同22.9%）、石油製品が795億円（同4.3%）の順となっています。

図38 四日市港の品目別貿易状況



資料 名古屋税関「貿易年表」

金融

平成24年3月31日現在の預貯金残高（郵便貯金を除く）は、10兆9,174億円となり、前年に比べ2,689億円（2.5%）増加しました。貸出残高は、4兆7,798億円となり前年に比べ267億円（0.6%）減少しました。

平成24年の企業倒産件数は、129件となり前年に比べ24件（22.9%）増加しました。負債総額は598億円となり21億円（3.4%）減少しました。

図39 預貯金・貸出残高の推移

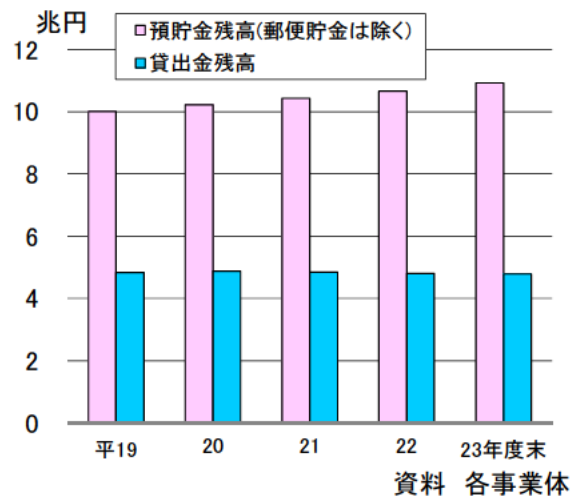
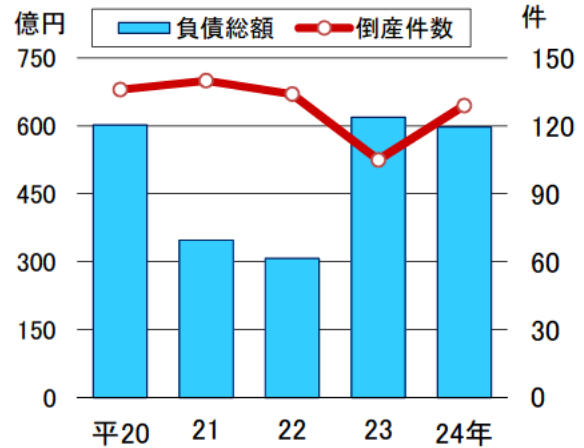


図40 企業倒産状況の推移



資料 (株)東京商工リサーチ天津支店